

neutral

ソリューション概要

○プロフィール

ニュートラル株式会社は株式会社ジークホールディングスのグループ企業として、SAP コンサルティングやシステムの受託開発などを手掛けています。特に製造企業向け IT システムに大きな強みを持っており、三次元 CAD/CAM や PDM、制御系システム、Web システム、ERP など、幅広い分野での開発実績があります。ジークホールディングスは現在、上場を目指して内部統制の確立を進めており、ニュートラルではその実装を最小限の人的負担で実現するため、SAP と連携した BPMS の構築を行いました。

○シナリオ

- ・持ち株会社であるジークホールディングスが、内部統制の確立に向けた取り組みを 2006 年に開始。監査法人と共に内部統制ルールを整備していった。
- ・ジークホールディングスのグループ企業には基幹システムとして SAP が導入されていたが、SAP への入力に至る業務プロセスは手作業で行われており、組織間のやり取りもメールや FAX が使われていた。
- ・このままの状況で内部統制ルールを適用すると、過大な人的負担が発生すると判断。この問題を解決するため、SAP と連携した BPMS の構築に踏み切った。
- ・BPMS 製品の選定では、柔軟性の高さ、マイクロソフト製品との親和性の高さを重視。その結果、Microsoft® Office SharePoint® Server 2007 上で動く AgilePoint BPMS が採用された。

○ソフトウェアとサービス

- ・Microsoft® Office SharePoint® Server 2007
- ・Microsoft® Office InfoPath® 2007
- ・Microsoft® Office Excel® 2007
- ・Microsoft® Office Visio® 2007
- ・Microsoft® SQL Server® 2005
- ・Microsoft® Visual Studio® 2008
- ・Microsoft® BizTalk® Adapter Pack
- ・AgilePoint BPMS (アセトン株式会社)

○メリット

SAP と連携する BPMS を構築することで、経理担当をはじめ、業務負担が大幅に軽減されました。また SAP 入力に至るまでのプロセスが記録されるため、監査証跡も取りやすくなっています。

○ユーザー コメント

「ルールを作成するだけでは内部統制は実現できません。実際の業務をきちんとルールに適合させるには、そのためのしくみ作りが不可欠です」

ニュートラル株式会社
SOA・BPM・MDMソリューション本部
本部長
渡辺 博和 氏

Microsoft Office SharePoint Server 2007 上で動く ビジネス プロセス マネージメント システムを SAP ERP と連携、内部統制の確立を最小限の人的負担で実現可能に

株式会社ジークホールディングス (以下、ジークホールディングス) のグループ企業として、SAP コンサルティングやシステムの受託開発などを手掛けているニュートラル株式会社 (以下、ニュートラル) 。ここではジークホールディングスの上場に向けた内部統制の確立を、最小限の人的負担で実現できるシステムが構築されています。Office SharePoint Server 2007 の上で AgilePoint BPMS を動かし、これを独自開発のモジュールで SAP と連携させているのです。これによって業務担当者の業務負担を大幅に軽減。SAP 入力に至るプロセスも追跡しやすくなりました。今後はこのシステムをグループ全体に展開し、最終的には連結決算までカバーすると共に、システムを外販することも計画されています。

■ 導入背景と狙い

上場を目指し内部統制ルールを整備

その実装負担を最小化するため BPMS を構築

不正や誤りを防止し、規律ある業務遂行を実現するため、2008 年度から日本でも求められるようになった企業の内部統制。株式を上場している企業とその関連会社は、内部統制報告書と内部統制監査報告書の提出が義務付けられるようになりました。

内部統制の確立は、業務の混乱や非効率化、不透明化といったリスクを回避できるというメリットをもたらします。しかしその運用にはかなりのマンパワーが必要です。そのため、比較的規模の小さい企業にとっては過大な負担となり、成長を阻害する危険性もあると指摘されています。

このような問題を、Office SharePoint Server 2007 上で動くビジネス プロセス マネージメント システム (BPMS) によって解決しているのが、ニュートラルです。同社はジークホールディングスのグループ企業として、人材派遣やアプリケーションの受託開発などを手掛けています。特に製造企業向け IT システムに大きな強みを持っており、CAD/CAM や PDM、ERP、組み込みシステムなど、幅広い開発案件の実績があります。

ニュートラルによる BPMS への取り組みには、親会社であるジークホールディングスが上場に向けた準備を進めつつある、という背景があります。ジークホールディングスでは 2006 年から監査法人と共にこの作業を行っており、2008 年 12 月には内部統制の土台となる各種ルールを完成させているのです。

「しかしルールを作成するだけでは、内部統制を実現することはできません」というのは、ニュートラル株式会社 SOA・BPM・MDMソリューション本部 本部長の渡辺博和氏。実際の業務をきちんとルールに適合させるにはそのためのしくみ作りが不可欠であり、適切な IT システムを構築しないまま内部統制を導入すれば、現場の人的負担がきわめて大きくなると指摘します。「ジークホールディングスには 6 つのグループ企業がありますが、これまで現場の連携は主にメールや FAX、郵送で行われていました。基幹システムとしては各社に SAP が導入されていますが、承認プロセスと SAP への入力は切り離されており、そのままでは内部統制ルールを横展開するのが難しい状況だったのです」。



ニュートラル株式会社



ニュートラル株式会社
SOA・BPM・MDMソリューション
本部
本部長
渡辺 博和氏

ニュートラルでは「最小限の人的負担で内部統制を確立するには、SAP と直接連携できる BPMS が不可欠」と判断。そこで 2008 年 7 月に BPMS の研究に着手します。そして 2008 年 12 月には SAP と連携する BPMS を、Office SharePoint Server 2007 の上で実現。これまで手作業で行われてきた各種ビジネス プロセスを、順次このシステム上に展開しつつあるのです。

■ 導入の経緯

マイクロソフトとの親和性と柔軟性を重視 システム開発に要した期間はわずか 1 か月



ニュートラル株式会社
SOA・BPM・MDMソリューション
本部
ITアーキテクト
鈴木 悦雄氏

BPMS の構築で大きな課題になったのが、適切な BPMS 製品の選択でした。「SAP はすばらしい基幹業務パッケージですが、SAP のビジネス ワークフローは必ずしも使いやすいとはいえません」と言うのは、ニュートラル株式会社 SOA・BPM・MDMソリューション本部 ITアーキテクトの鈴木悦雄氏。現場部門が使えるより使いやすい BPMS を実現するには、SAP 以外の選択肢を考える必要があったと振り返ります。そこでニュートラルでは複数の BPMS 製品を比較検討。最終的にアセトン株式会社の AgilePoint BPMS の採用を決定します。

それではなぜこの製品が選ばれたのでしょうか。大きく 2 つのポイントがあったと鈴木氏は説明します。

1 つは柔軟性の高さです。AgilePoint BPMS は Microsoft Office Visio によって直感的にビジネス プロセスをモデル化でき、その動きをその場でシミュレートすることや、修正を行うことが容易です。また AgilePart と呼ばれるモジュールをユーザーが作成、実装することで、機能の追加も簡単にいきます。

もう 1 つのポイントは、マイクロソフト製品との親和性の高さです。AgilePoint BPMS は前述のように、Office Visio によってビジネス プロセスを定義できるうえ、Office Visio と Microsoft Visual Studio との融合も実現しています。またバックエンドとして Microsoft BizTalk

Adapter Pack を組み込んだ Office SharePoint Server を活用しており、ユーザー インターフェイスには Microsoft Office Excel や Microsoft Office InfoPath が使用できます。

「BPMS というものは "どの企業にもそのままの形で導入できる" というものではありません」と渡辺氏。ビジネス プロセスは企業が置かれた環境によって変わっていくもので、パッケージ ソフトとは異なるアプローチが必要なのだと思います。「重要なのは、ユーザー企業のカスタマイズによって柔軟に成長できることと、他のシステムと連携しやすいことです。特にマイクロソフト製品は企業内で広く使われているので、これとの親和性を確保しておくことは必須条件だと考えています」。

2008 年 11 月にはシステム設計に着手。SAP との連携を行う AgilePart と呼ばれるカスタムパーツの開発や、ビジネス プロセスのモデル化をより効率化するための AgilePart の開発、これらを活用したビジネス プロセスの実装等が、社内を進められていきました。そして設計開始からわずか 1 か月後にはシステムが動き始めているのです。

「私は元々 CAM の開発者だったので、Office SharePoint Server や BPMS を使うのは初めてだったのですが、非常に開発しやすいという印象を受けました」と言うのは、今回のシステム開発に参加した、ニュートラル株式会社 SOA・BPM・MDMソリューション



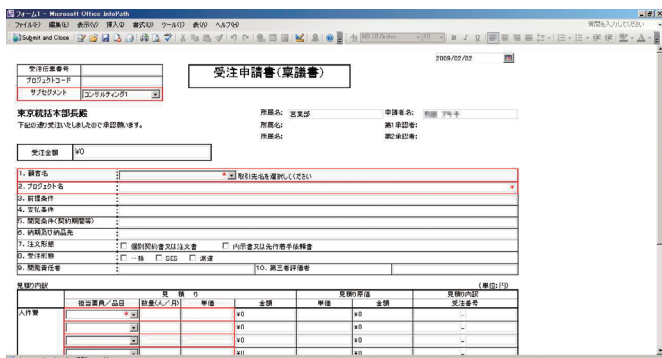
ニュートラル株式会社
SOA・BPM・MDMソリューション
本部
植田 一平氏

本部の植田一平氏。ワークフローを SAP と連携させる部分は Visual Studio でコーディングしていますが、(SAP の外向け API である) BAPI のラッパー クラスをウィザードで生成できるなど、マイクロソフトの強力な開発機能が活用できたため、短期間で実装できたと説明します。また SAP のノウハウを持つ社内の開発者が汎用性の高い SAP 連携インターフェイスを開発し、これをカプセル化しておいたことも、短期開発に大きな貢献を果たしていると言います。

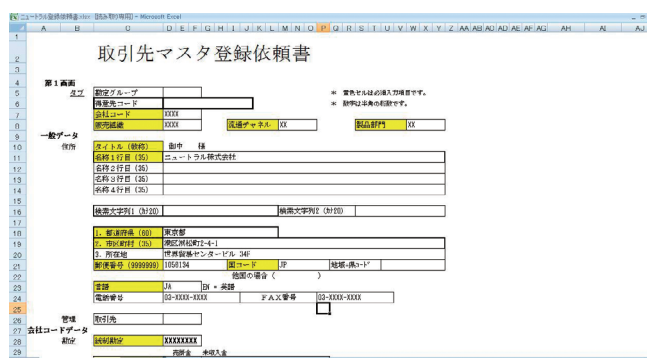
■ システムの概要

独自開発パーツで BPMS と SAP とを連携 担当者の負担軽減とプロセス可視化を実現

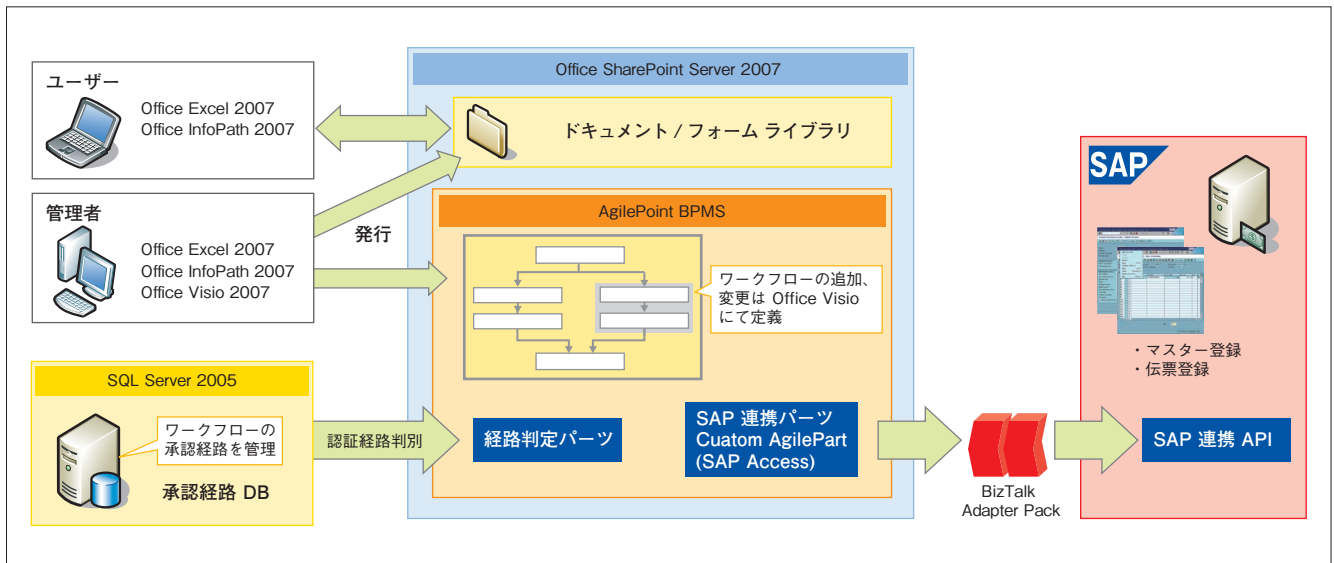
構築されたシステムの構成は図に示すとおりです。まず、Office SharePoint Server 2007 の上で AgilePoint BPMS が動いています。ユーザーは Office Excel や Office InfoPath をユーザー インターフェ



申請画面サンプル



申請書サンプル



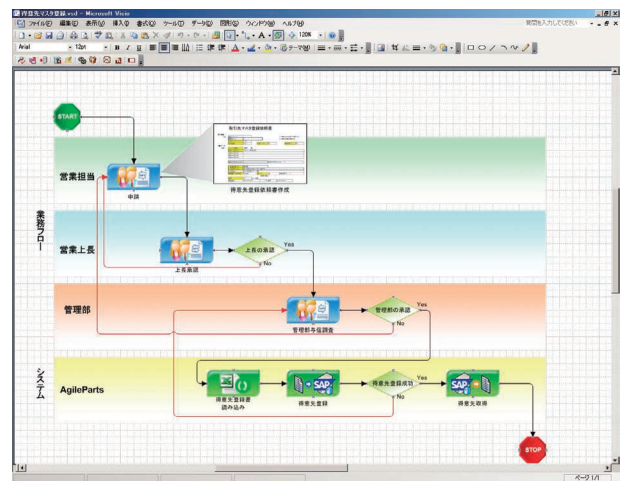
システム構成図

イスとして、AgilePoint BPMS が管理するビジネス プロセス (ワークフロー) にアクセスします。そしてビジネス プロセスと SAP との連携は、独自開発の AgilePart によって自動的に行われるようになっています。ビジネス プロセスのモデル化は Office Visio によって行いますが、ここでもニュートラル独自の工夫が盛り込まれています。Microsoft SQL Server に格納されたパラメーターと連携してビジネス ルールを定義できる AgilePart が作成されており、これを Office Visio で定義されたフローの中に組み込むことで、ビジネス プロセスを動的に変更できるようになっています。

「AgilePoint BPMS の標準機能のままビジネス プロセスをモデル化すると、複雑なプロセスの業務では完成したフローが非常に大きなものになってしまい、ユーザーにとっては全体像の把握や現状のフロー確認が難しくなります」と鈴木氏。またビジネス ルールが一部変更されたときに、フローそのものに手を入れるのは手間がかかるうえ、思わぬミスを誘発する危険性もあると説明します。「しかしデータベースと連携した AgilePart でプロセスの一部をパッケージングすれば、個々の業務のフローをよりシンプルに表現でき、ルール変更もパラメーター修正で対応できます。AgilePoint BPMS の柔軟性の高さは、このような形で活かされているのです」。

現在、既に月次勤務表の入力や承認、経費精算、交通費精算、受注および承認、取引先登録などの業務で、このシステムが活用されています。各社員が入力したフォームのデータは、必要に応じて自動的に SAP へと渡されるため、業務担当者の負担は大幅に削減されました。また SAP の GUI 画面を使用せずに処理できるので、作業効率そのものも向上しています。「以前は Office Excel シートをプリントアウトして FAX で経理部に送信していたのですが、経理部では SAP への入力だけで 1 明細あたり 5 分程度かかっていました」と渡辺氏。「今では証券との突き合わせだけなので、わずか数十秒です。かなりの省力化だと言えます」。

また、SAP への入力に至るまでのプロセスが記録されるため、監査証拠が取りやすくなったことも大きなメリットです。たとえば不正や誤り



ワークフロー プロセス モデリング



ニュートラル株式会社
東京統括本部
営業部 部長
齋藤 広幸氏

の可能性のあるデータが SAP 内で見つかった場合、承認プロセスまでさかのぼってどのような処理が行われたのかを簡単に確認できるのです。これは BPMS と SAP が直接連携しているからこそ可能になったことだと言えます。

さらに、ニュートラル株式会社 東京統括本部 営業部 部長の齋藤広幸氏は「弊社では 2009 年 1 月から内部統制の対応のため、各営業拠点での小口現金管理が廃止されていますが、このシステムは現金管理の集中化を実現するうえでも重要な役割を担っています」と指摘します。もしこのシステムで経理業務が省力化されていなければ、必要経費の処理が遅くなり、現場も混乱していたはずだと言うのです。「以前は SAP を理解している人に負荷が集中する傾向がありましたが、今後はこのようなこともなくなるでしょう。特定の社員への依存度が少なくなれば、異動や休暇に伴う担当者の代替も行いやすくなるはず」。

もしこのシステムで経理業務が省力化されていなければ、必要経費の処理が遅くなり、現場も混乱していたはずだと言うのです。「以前は SAP を理解している人に負荷が集中する傾向がありましたが、今後はこのようなこともなくなるでしょう。特定の社員への依存度が少なくなれば、異動や休暇に伴う担当者の代替も行いやすくなるはず」。

■ 今後の展望

最終的にはグループの連結決算までカバー このシステムを外販していく計画も

このシステムで動いているビジネス プロセスはまだ全体の 1/3 程度ですが、今後はさらに対象業務を拡大していく計画です。また、他のグループ企業への導入も進めていき、最終的には連結決算までカバーすることが目指されています。「マイクロソフト製品をベースにしたシステムなので、横展開は難しくはないはず。ユーザー インターフェイスも、ルールが複雑なフォームは Office InfoPath、比較的単純なものや既存フォーマットを利用したいものは使い慣れた Office Excel と使い分けられるので、ユーザーにとっても使いやすいと思います」(鈴木氏)。このシステムを外販することも計画されています。「SAP を BPMS と連携させれば、SAP のポテンシャルをさらに引き出すことが可能になります」と渡辺氏。内部統制の省力化を模索している企業はもちろんのこと、SAP で経営を可視化したい企業にも、ぜひ活用して欲しいと言います。



アセントン株式会社
代表取締役
佐藤 尋美 氏

「もちろんそのためには、ビジネス プロセスやルールを明確にし、それをシステム上で表現しなければなりません。私どもにはそのためのノウハウもありますので、コンサルティングも含めたサポートを提供する予定です」。

アセントン株式会社 代表取締役 佐藤尋美氏も「BPMS と基幹システムの連携に悩んでいるお客様は、決して少なくありません」と指摘。このシステムの外販は、BPMS の可能性を拡大するうえでも、大きな意味を持つはずだと言います。

「ニュートラル様は BPMS について非常によく研究されており、SAP に関するノウハウも豊富にお持ちです。BPMS/基幹システム連携を推進していくため、私どもも精一杯の支援をさせていただきたいと考えています」。

今後、ニュートラル社内での問題を解決すべく構築されたシステムが、内部統制や基幹システムとの連携に苦慮する企業に対して、強力な BPMS となることが期待されています。

■ 導入についてのお問い合わせ

本ケーススタディは、インターネット上でも参照できます。<http://www.microsoft.com/japan/showcase/>
本ケーススタディに記載された情報は制作当時(2009年2月)のものであり、閲覧される時点では、変更されている可能性があることをご承知ください。
本ケーススタディは、情報提供のみを目的としています。Microsoft は、明示的または暗示的を問わず、本書にいかなる保証も与えるものではありません。
製品に関するお問い合わせは次のインフォメーションをご利用ください。
■インターネット ホームページ <http://www.microsoft.com/japan/>
■マイクロソフト カスタマー インフォメーション センター 0120-41-6755
(9:30～12:00、13:00～19:00 ※土日祝日、弊社指定休業日を除きます)
※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

Microsoft、BizTalk、Excel、InfoPath、SharePoint、SQL Server、Visio、Visual Studio は、米国 Microsoft Corporation および/またはその関連会社の商標です。
その他、記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

マイクロソフト株式会社 〒151-8583 東京都渋谷区代々木 2 丁目 2 番 1 号 小田急サザンタワー